

# 【調査概要】 日本の看護職者を対象とした 気候変動と健康に関する調査

日本医療政策機構  
2024年11月14日

お問い合わせなどがございましたら 下記までご連絡ください。

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-2  
大手町フィナンシャルシティ  
グランキューブ3階  
グローバルビジネスハブ東京

TEL: 03-4243-7156  
FAX: 03-4243-7378  
Info: [info@hgpi.org](mailto:info@hgpi.org)  
Website: <https://www.hgpi.org>

**出典記載例：**

日本医療政策機構（2024）. 日本の看護職者を対象とした 気候変動と健康に関する調査.

# 調查結果概要



# 本調査の概要

---

**目的**：気候変動と健康への影響に関する、日本の看護職者の知識や意識の程度、および職務的見解やニーズについての実態を明らかにすること

**方法**：気候変動と健康の知識、意識、職務的見解に関する自記式質問紙票を作成し、オンライン調査プラットフォームを通じて調査を実施した

**調査対象**：日本全国の看護職者（看護師、保健師、助産師）1,200名

**調査期間**：2024年8月26日～8月31日

**倫理承認**：新潟大学研究倫理委員会より取得した  
(承認番号：2023-0358)

**研究資金**：日本医療政策機構の資金により実施した



# 主な調査結果

## 【気候変動に関する認識】

1. 看護職者の多く（約70％）は、世界のあらゆる地域で気候変動が起きている事実を認識していた
2. 看護職者のほとんど（93％）は、日本において何らかの異常気象が発生していると認識しており、異常気象により生命の危険を感じている者もいた
  - ✓ 過去2～3年間の気象の発生頻度や強さの変化について体感している者の内、「以前と比べて異常だと感じる」と回答した者はそれぞれ「高温」（96.1％）、「大雨や豪雨」（86.4％）、「台風や高潮」（74.0％）、「洪水」（71.0％）、「干ばつ」（62.1％）と過半数を占めた
  - ✓ 特に、「以前と比べて明らかに異常で、生命の危険を感じる」と回答した者はそれぞれ、「高温」（30.5％）、「大雨や豪雨」（18.7％）、「台風や高潮」（14.2％）、「洪水」（13.8％）、「干ばつ」（8.4％）を占め、高温については「例年同様で、異常と感じない（3.9％）」ものより7.8倍であった
3. 異常気象を認識している者の内、ほとんどの者（94％）は、気候変動が原因であると回答している
4. 異常気象を認識している者の多く（75.3％）は「対策をとらない限り、次世代までずっと続いていくと思う」と回答した

## 【気候変動に関する知識】

5. **多くの看護職者は気候変動と健康影響に関する正確な知識を有しておらず（全問正答率※42%）、「プラネタリーヘルス」という言葉も浸透していない（11.2%）**
  - ✓ 有資格別にみると、助産師（全問正答率58%）、保健師（同50%）、看護師（同40%）と、助産師が最も知識を有している者の割合が高かった
6. **気候変動が健康に与える影響に関して、看護職者が教育を受ける機会はきわめて限定的である（13.5%）**
  - ✓ 「気候変動と健康」に関する情報について、「知っている」と回答した者の内、助産師の有資格者は「学会・専門機関から発信される情報（論文、学術集会、専門Webサイトなど）」から入手した者が33%と他の有資格者（看護師12%、保健師11%）より高かった
  - ✓ 育以外で情報を得る機会として、マスメディア（73.8%）、ソーシャルメディア（34.5%）、その他インターネットメディア（15.3%）等が上位に上がった

## 【気候変動に関する職務的見解】

7. **多くの看護職者は、気候変動は重要な課題であると回答した（72%）**
  - ✓ その理由として、「生命に関わり保健医療分野との関連が強い」「将来の世代のために取り組む必要性がある」「保健医療分野も環境に悪影響を及ぼしている」等が上位にあがった
  - ✓ 気候変動の課題に取り組む際の障壁として、「課題解決のための具体的な実践方法がわからない」「他に優先すべき職務や課題がある」「気候変動と健康の関連に関する知識不足」等が上位にあがった

**8. 多くの看護職者は、「気候変動と健康」に関する知識を学ぶ必要があると回答した（80%）**

- ✓ 学ぶ必要があると思う理由として、「生命に関わる内容であり、看護職者として知っておく必要があるため」「健医療分野からの環境への悪影響について、もっと理解すべきであるため」「目の前の患者／対象や将来世代のために、今後取り組む必要性があると考えるため」等が上位にあがった
- ✓ 所属施設別にみた場合、「病院」（76%）「診療所」（84%）「在宅療養施設」（83%）「介護福祉施設」（83%）「看護系教育機関」（85%）「行政機関」（89%）「その他」（90%）と病院が最も低い回答率であった

**9. 多くの看護職者が、「気候変動と健康」に関しての学習意欲があると回答した（84%）**

- ✓ 学習したい内容として、「健康への影響や疾病について」「異常気象災害など有事の備えについて」「日常業務における具体的な実践方法について」等が上位にあがった

**10. 保健医療分野に起因する温室効果ガス（GHG：Greenhouse Gas）排出量を知っていると回答した者は少数（20%）であったが、その事実についてほとんどの看護職者が問題であると考えており（90%）、過半数が「今後も現在以上にGHG排出量が増加することを懸念している」と回答した（58.4%）**

**11. 多くの看護職者がより環境への負担が少ない保健医療サービスを提供するための選択肢がある場合、積極的にそれを採用すべきだと思っている（78%）一方で、約半数が具体的な実践方法が分からないと回答した（49.7%）**

12. 所属施設における取組みについてそれぞれ、廃棄物管理（63%）、デジタル技術の利用（45%）、エネルギー管理（22%）、環境に配慮した施設管理（18%）、持続可能なサプライチェーンの利用（16%）、移動・輸送に関する取組み（16%）で実施していると回答した
- ✓ 一方で、施設での取組みについて「わからない」と回答した割合はそれぞれ、廃棄物管理（19%）、デジタル技術の利用（27%）、エネルギー管理（36%）、環境に配慮した施設管理（48%）、持続可能なサプライチェーンの利用（50%）、移動・輸送に関する取組み（45%）であった
  - ✓ また、「わからない」と回答した者を役職別にみると、施設の管理職よりも非管理職の方が高い割合を占めた（結果を参照）
  - ✓ 施設における取組みの目的として、「コスト削減のため」（78%）、「業務の効率化のため」（48%）、「環境負荷の軽減のため」（35%）、「その他」（0.3%）、「わからない」（5%）と回答した
13. 半数の看護職者（約50%）は、気候変動が及ぼす健康への影響について、患者／対象に教育する役割を担うことができると回答した
14. 多くの看護職者が、仕事以外の時間で、家族や友人・近隣住民など身近な人々に、健康・医療に関する情報提供や相談・支援をすることがあると回答した（約70%）

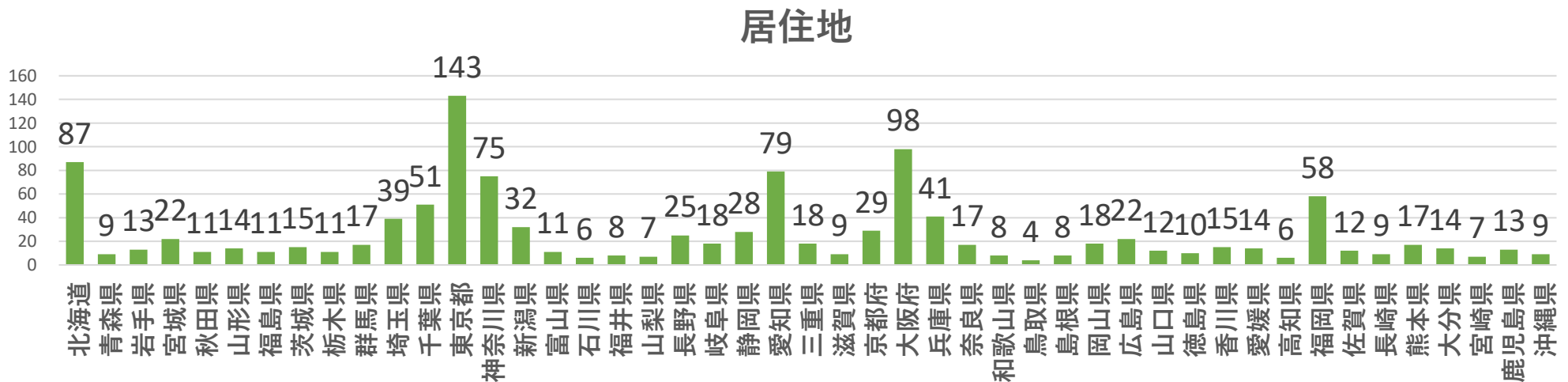
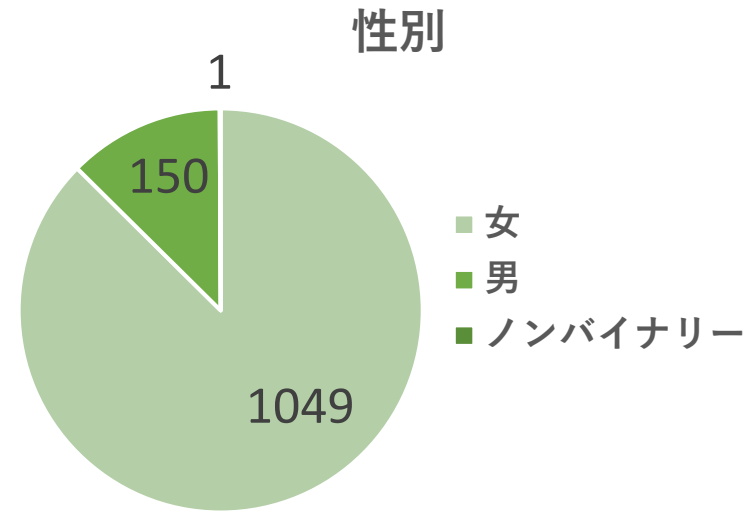
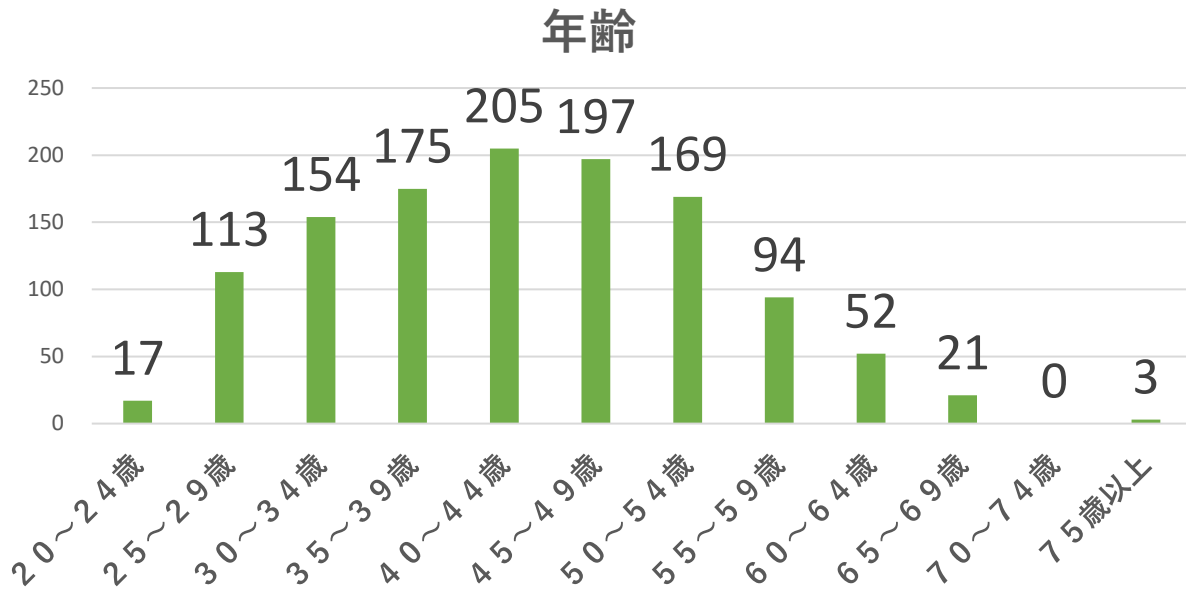
# 調査結果の詳細





# 対象者の属性（性別・年齢層・居住地）

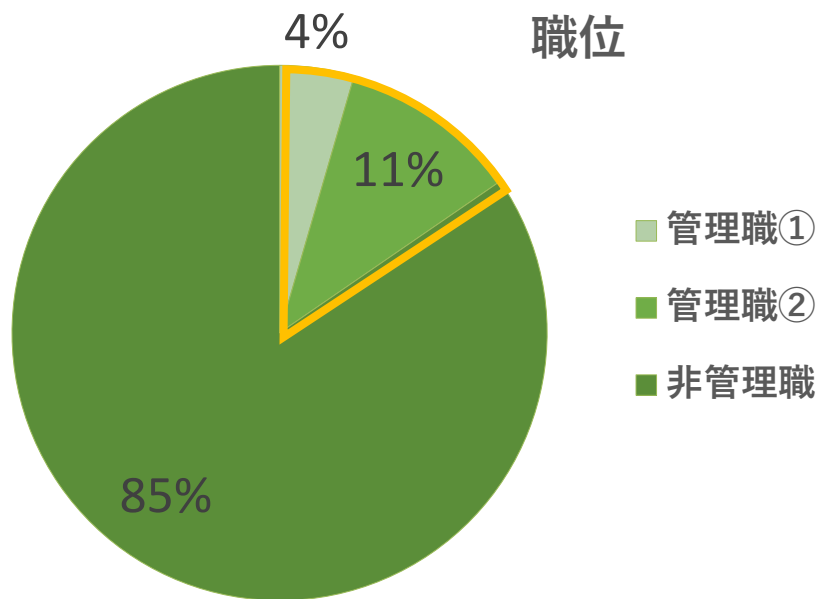
（2024年8月実施 N=1,200）





# 対象者の属性（職位・施設区分）

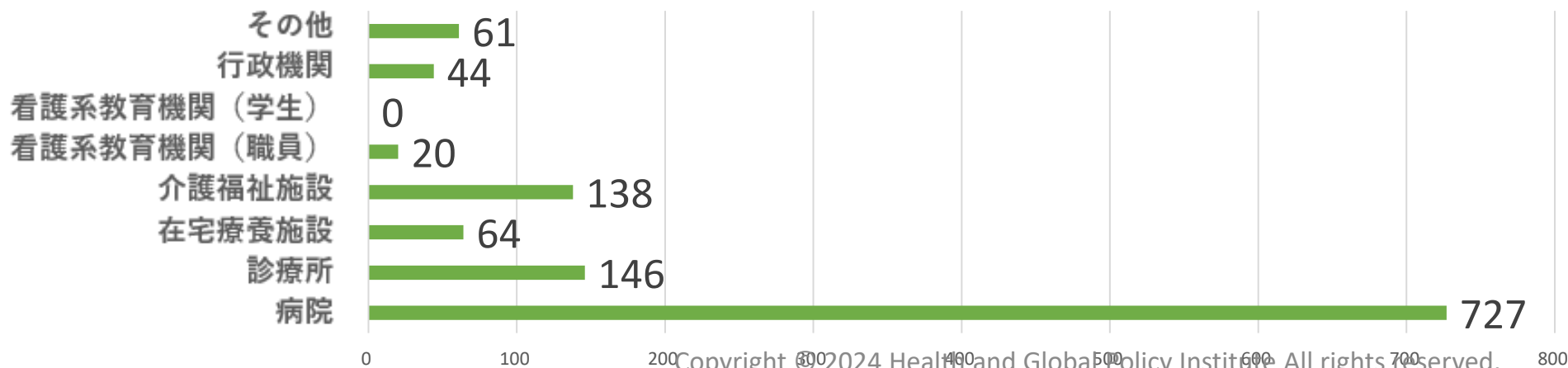
（2024年8月実施 N=1,200）



**管理職①**：看護部長、総師長、副看護部長、都道府県・市区町村の課長、訪問看護ステーション・福祉施設等の所長、学部長、等

**管理職②**：看護師長、副看護師長、都道府県・市区町村の係長、主任、学科長、教授、等

## 主たる所属施設の種類

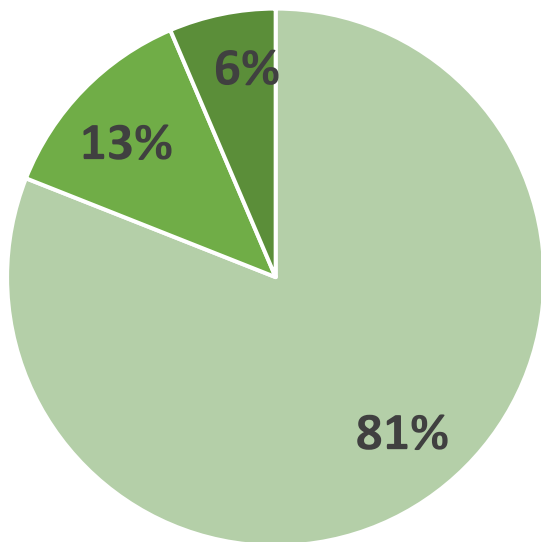




# 対象者の属性（資格・経験年数・学歴）

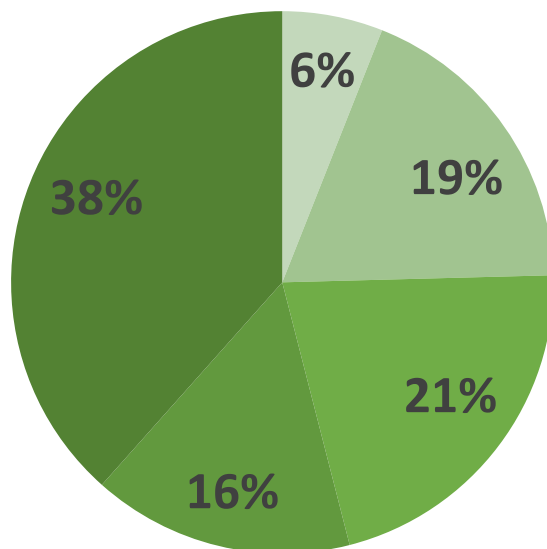
（2024年8月実施 N=1,200）

### 有している国家資格



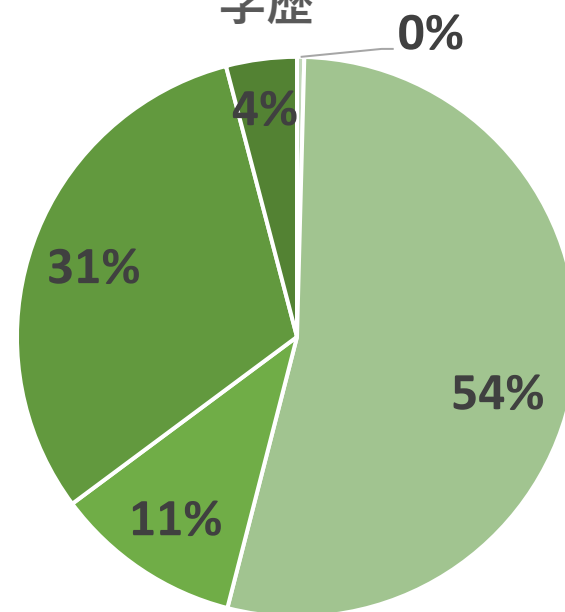
- 看護師資格のみ
- 保健師資格あり（助産師なし）
- 助産師資格あり

### 実務経験年数



- 4年以下
- 5～9年
- 10～14年
- 15～19年
- 20年以上

### 学歴



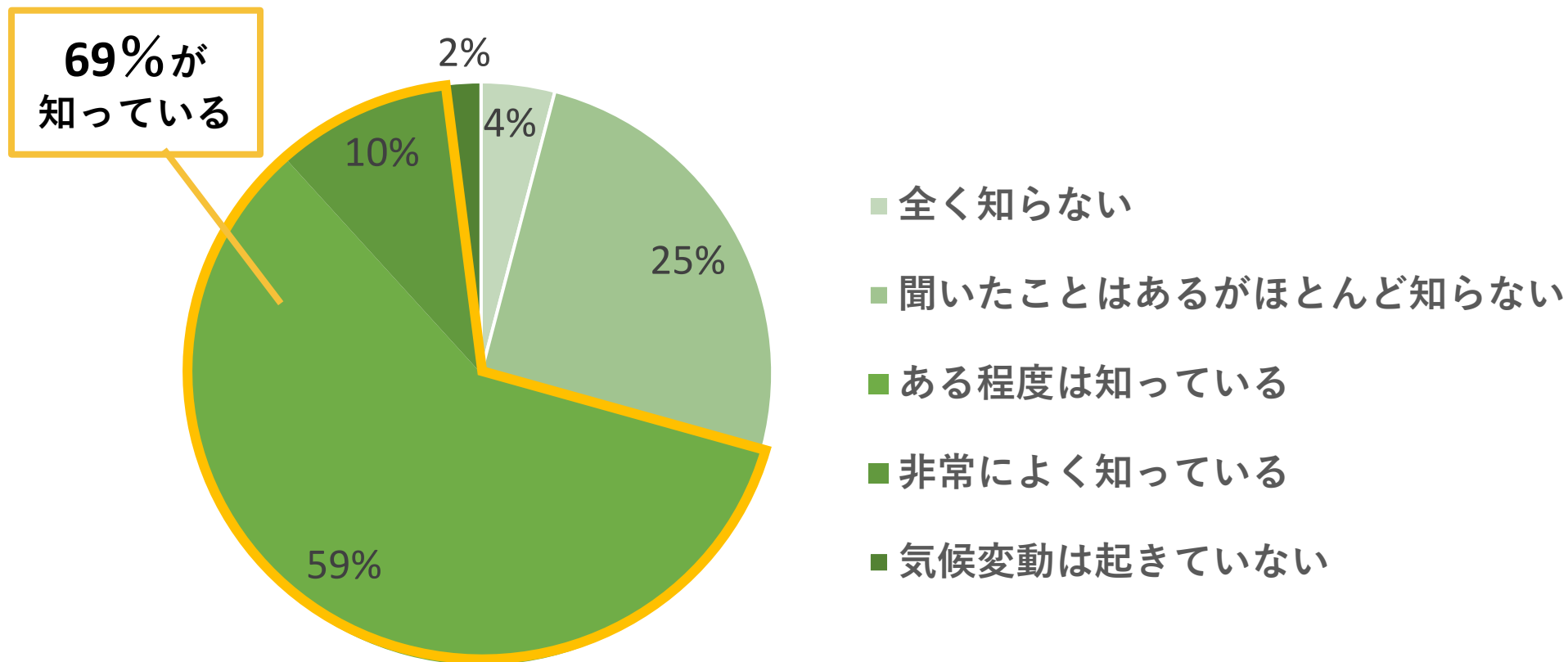
- 高校
- 専門学校
- 短期大学
- 四年制大学
- 大学院

# 気候変動と健康に関する 認識について



記述について、世界のあらゆる地域で気候変動が起きていることを知っていますか。  
(2024年8月 実施 N=1,200)

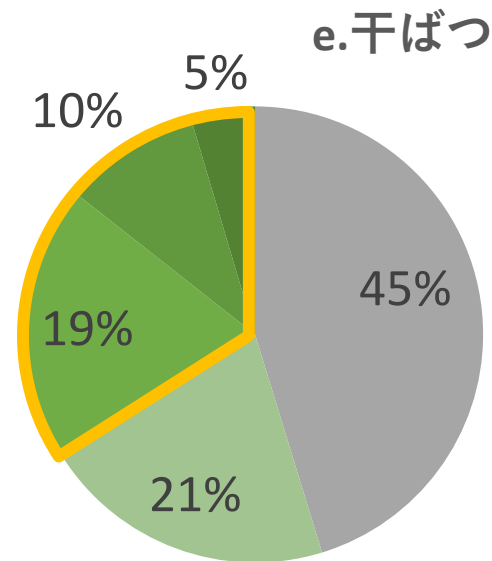
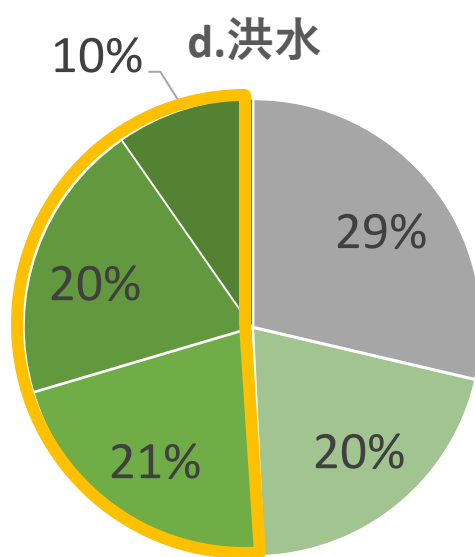
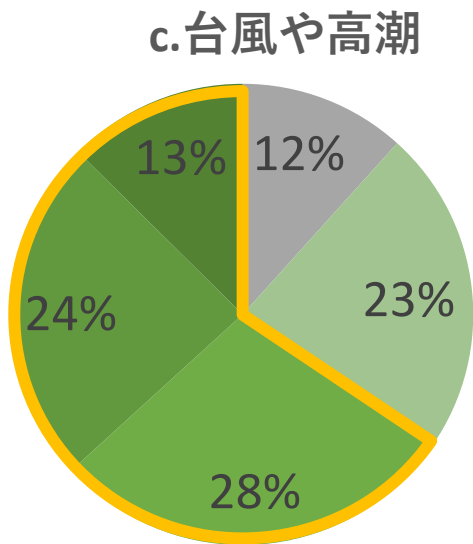
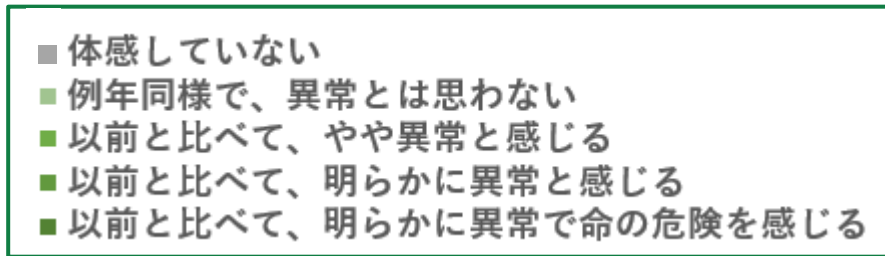
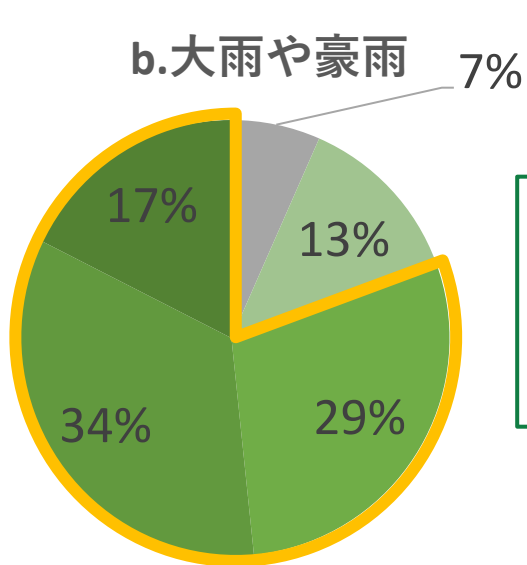
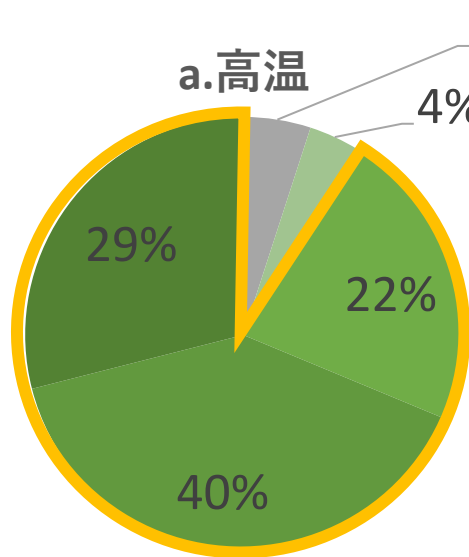
近年、地球温暖化の進行により、世界のあらゆる地域で、猛暑日が増加したり、集中豪雨などの極端現象が頻繁に起こったりしていて、人々の生活にさまざまな影響を及ぼしています。このように、気温や雨の降り方などが数十年を超える長期にわたって変化する現象のことを「気候変動」といいます。





# あなたのお住まいの地域において、過去2～3年間の下記 a～e の気象の発生 の頻度や強さについてどの様に感じますか。

(2024年8月 実施 N=1,200)

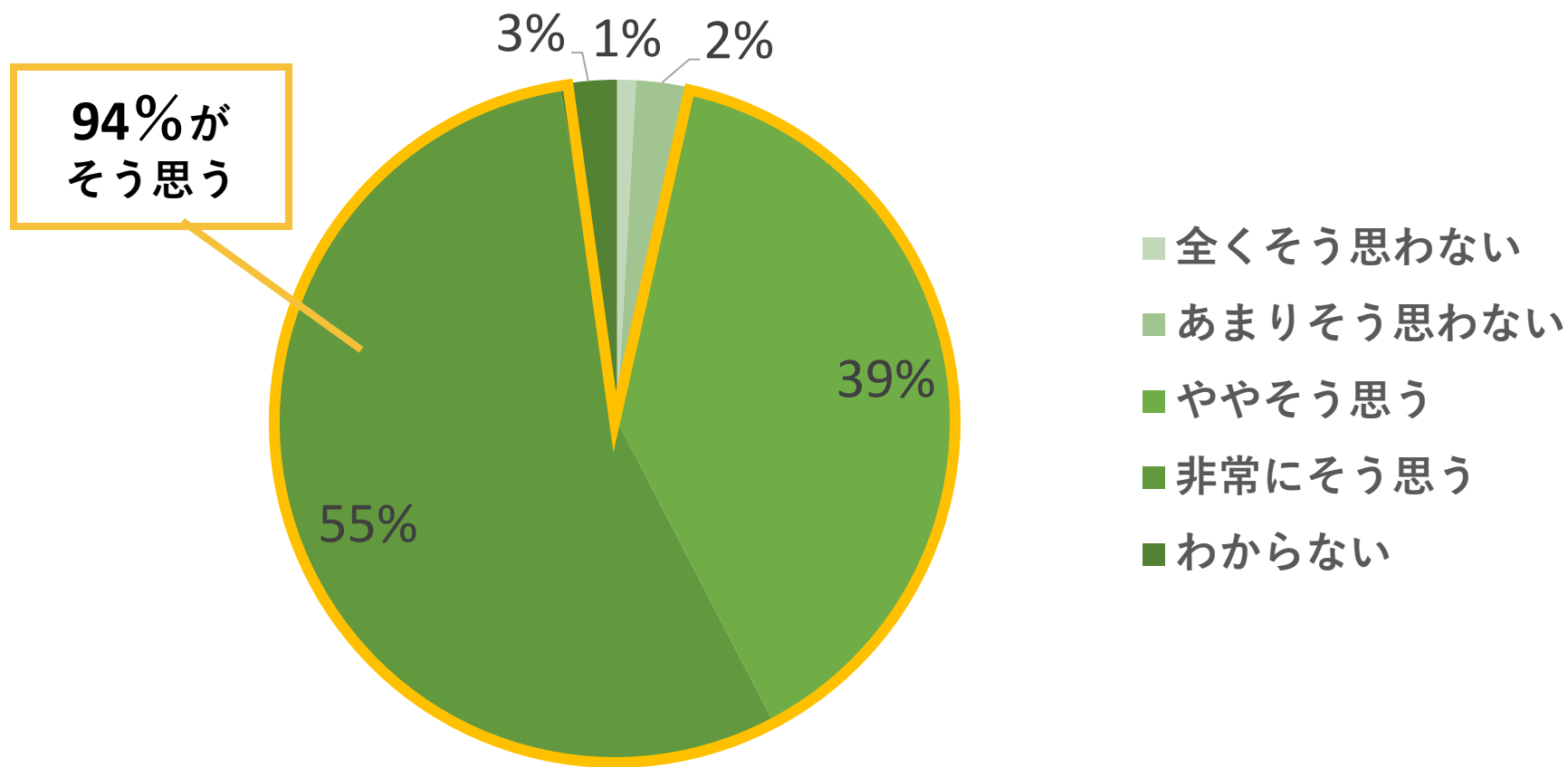




# あなたの体感している気象の発生頻度や強さの変化は気候変動が原因だと思いますか。

(2024年8月 実施 有効回答=1,116)

居住地の気象現象について「以前と比べてやや異常と感じる」「以前と比べて明らかに異常と感じる」「以前と比べて明らかに異常で命の危険を感じる」と回答した方はお答えください。

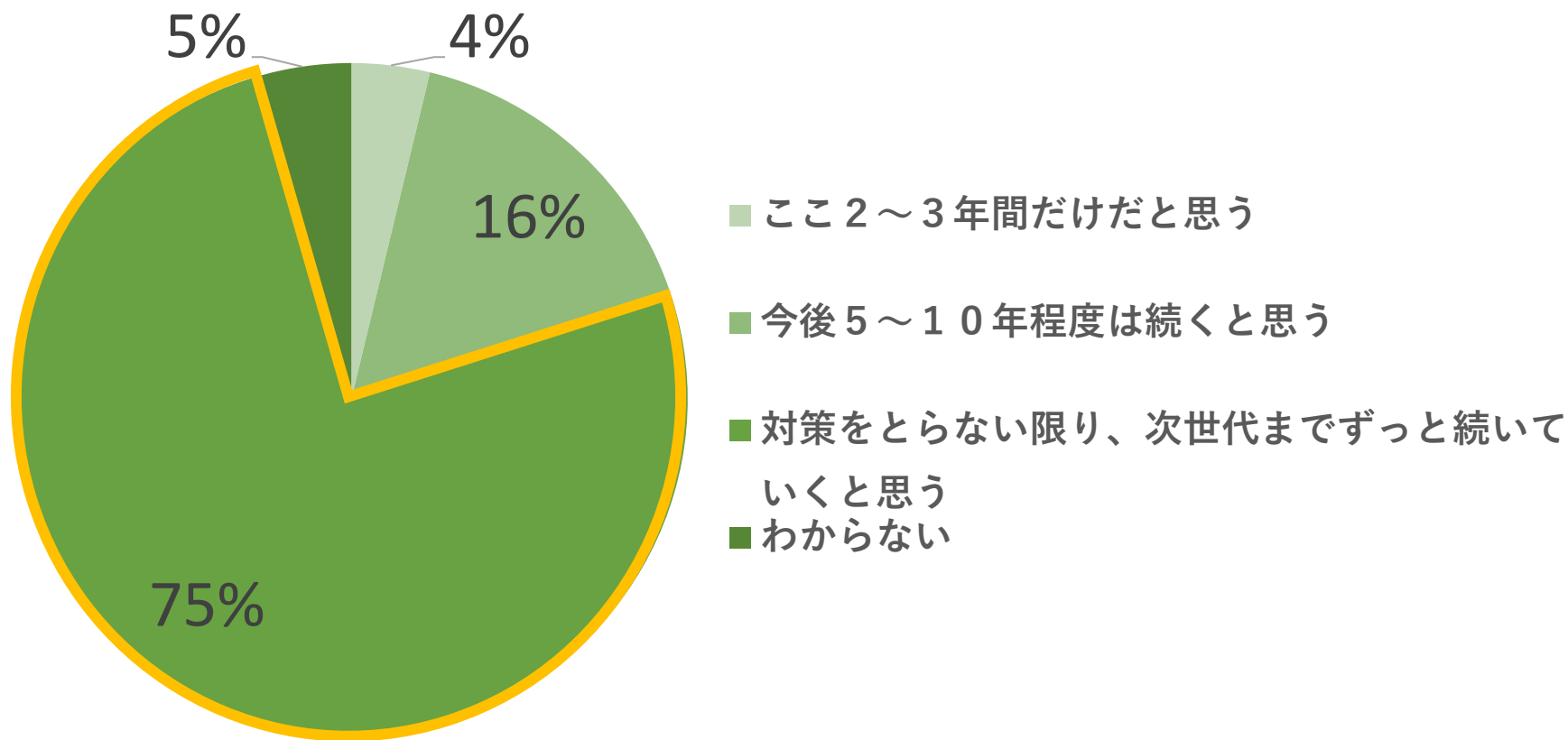




## 気象の発生や変化の体感は、今後も続いていくと思いますか。

居住地の気象現象について「以前と比べてやや異常と感じる」「以前と比べて明らかに異常と感じる」「以前と比べて明らかに異常で命の危険を感じる」と回答した方はお答えください。

(2024年8月 実施 有効回答=1,116)





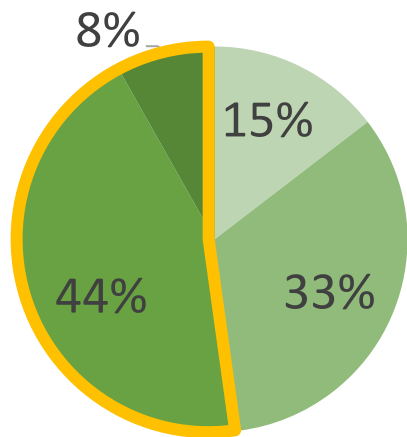
# 気候変動と健康に関する 知識について



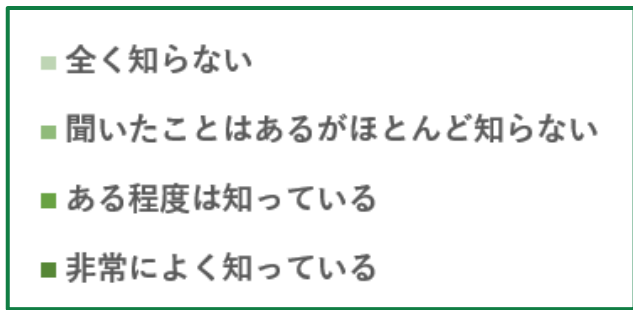
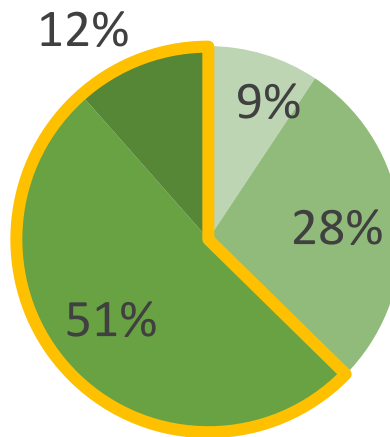
# あなたはこの内容についてどの程度知っているか率直にお答えください。 (2024年8月実施 N=1,200)

以下 a～dの「気候変動と健康」に関する記述は、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）や国連（UN）、世界保健機関（WHO）、日本の環境省などの様々な専門機関によって提唱されている内容です。

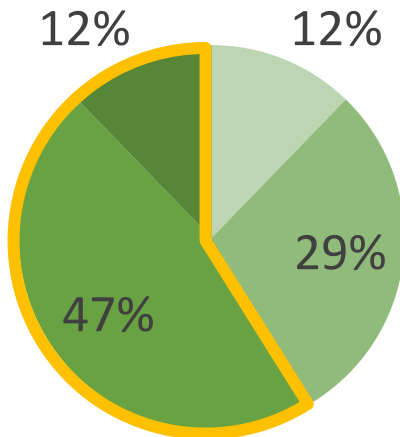
**a. 気候変動の原因となる温暖化は、大気中に温室効果ガス（GHG）を増加させる人間の行動が最も大きな原因である。**



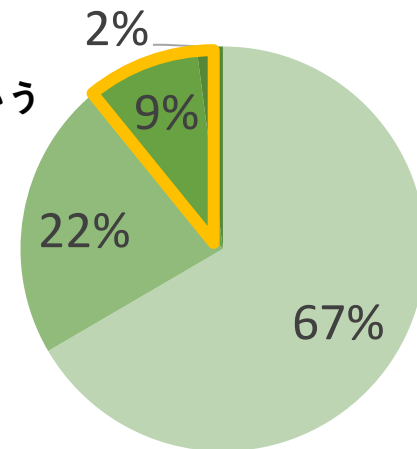
**b. 気候変動は、人々の健康に悪影響を及ぼす可能性を高める。**  
(熱中症の他、大気汚染による喘息やCOPDなどの呼吸器疾患の悪化、感染症の流行時期の変化、精神疾患、食料供給危機による低栄養など)



**c. 子どもや高齢者、その他の脆弱な集団（貧困に苦しむ人々、障害・疾病をもつ人々、女性など）は、気候変動による健康への悪影響がより大きくなる。**



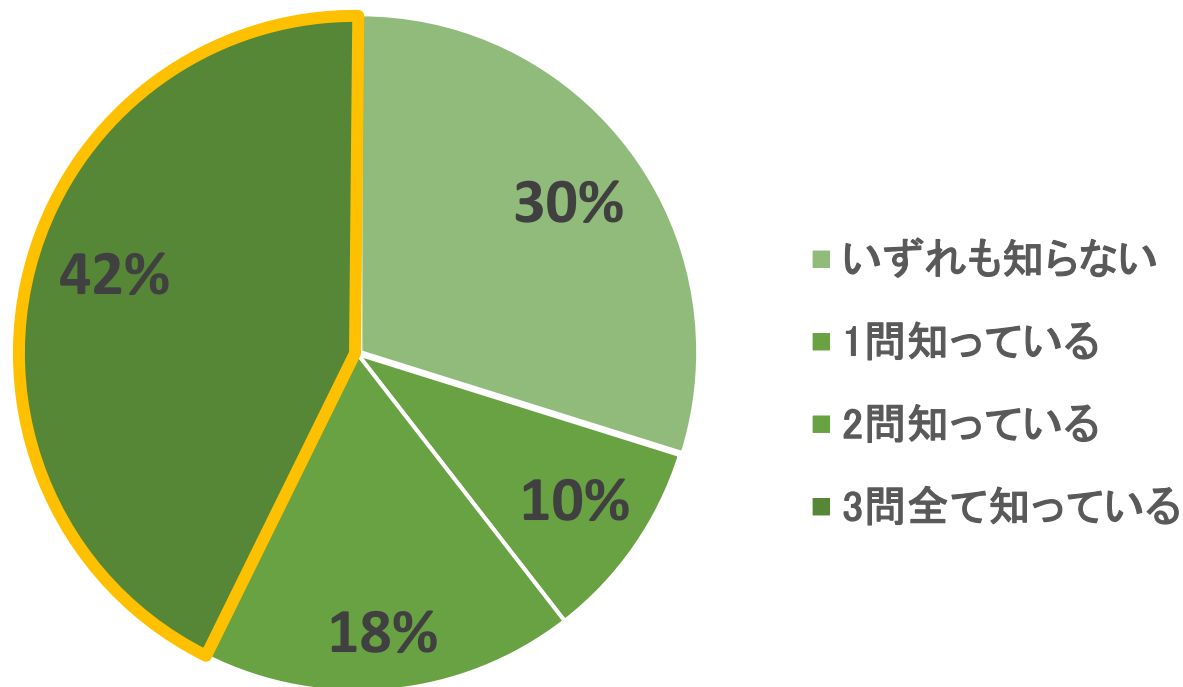
**d. プラネタリーヘルスという概念を知っていますか。**





あなたはこの内容についてどの程度知っているか率直にお答えください。  
(2024年8月実施 N=1,200)

設問a～bの正答数

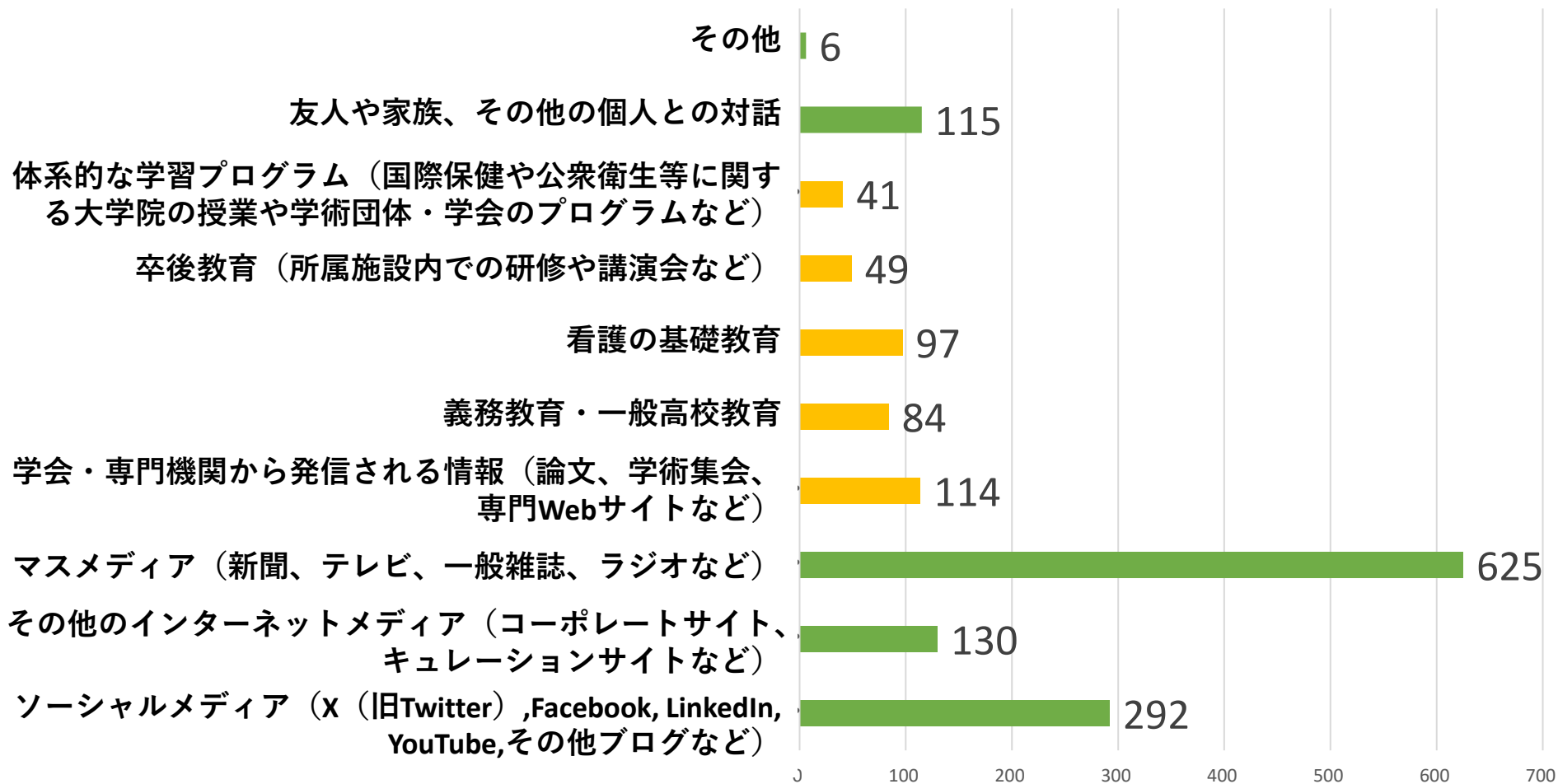




# 「気候変動と健康」に関する情報を、どこから入手しましたか？

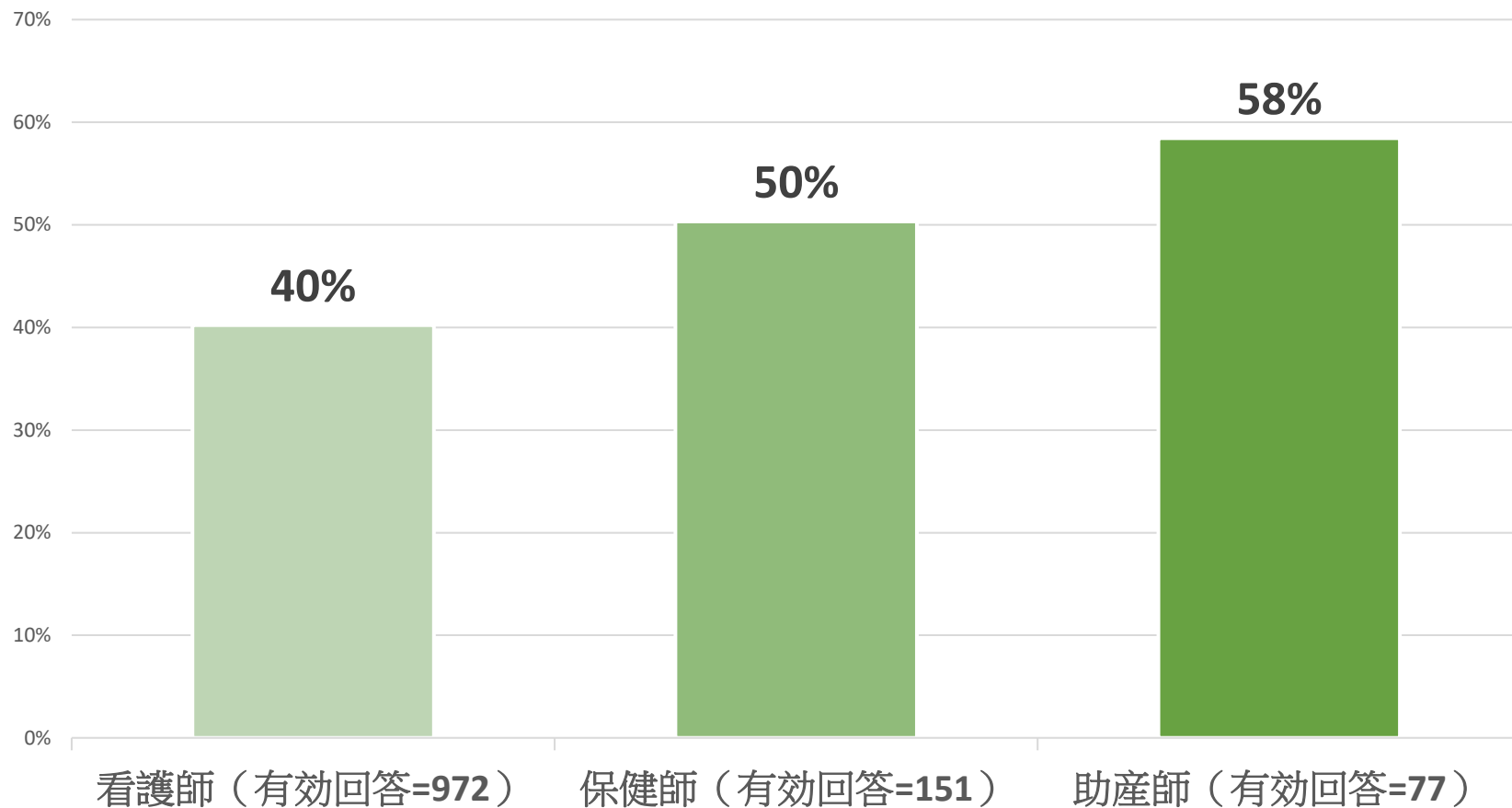
「気候変動と健康」に関する情報で、「ある程度は知っている」「非常によく知っている」を選択された方はお答えください。

(2024年8月実施 有効回答=847、複数回答可)





あなたはこの内容についてどの程度知っているか率直にお答えください。  
【職種別】（2024年8月実施 N=1,200）

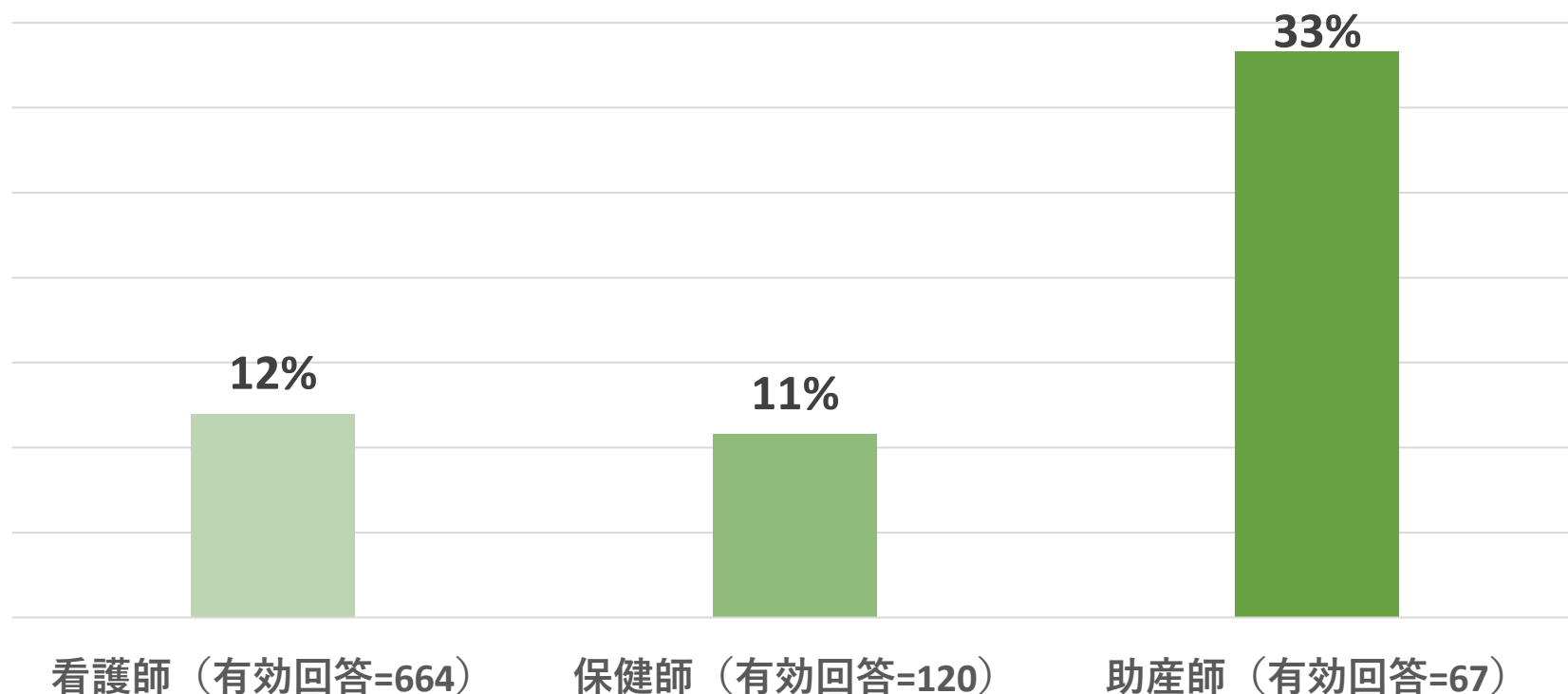




## 「気候変動と健康」に関する情報を、どこから入手しましたか？

「ある程度は知っている」「非常によく知っている」を選択された方はお答えください。

学会・専門機関から発信される情報（論文、学術集会、専門Webサイトなど）から入手した者の割合【有資格者別】（2024年8月実施 有効回答=847、複数回答可）



# 気候変動と健康に関する 職務的見解について

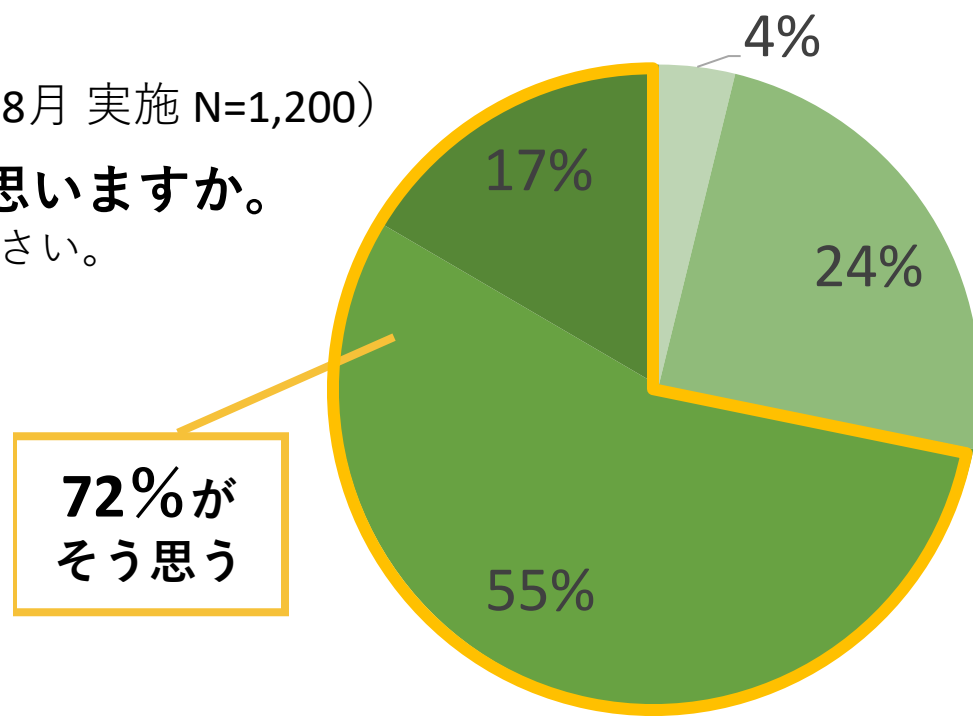


記述を読んだ上で、  
あなたの職務（保健師/助産師/看護師）の立場から、どの程度同意するかご回答ください。

気候変動は、直接的あるいは間接的な影響によって、2030年から2050年の間に年間約25万人の死亡者の増加を引き起こすとWHOによって推測されています。また国際看護師協会（ICN）は、2018年の所信声明（Nurses, Climate Change and Health）において、「看護専門職は、人々の健康とウェルビーイングを保護し、社会正義の推進に尽力する者として、気候変動への適応（悪影響に対する脆弱性の軽減）と気候変動の緩和（温室効果ガス〔GHG〕排出の削減または防止）に貢献する責務を負っている。」と述べています。

a. 看護職者にとって、（2024年8月 実施 N=1,200）  
気候変動は重要な課題であると思いますか。  
現状の認識に最も近いものをお選びください。

- そう思わない
- あまりそう思わない
- ややそう思う
- そう思う

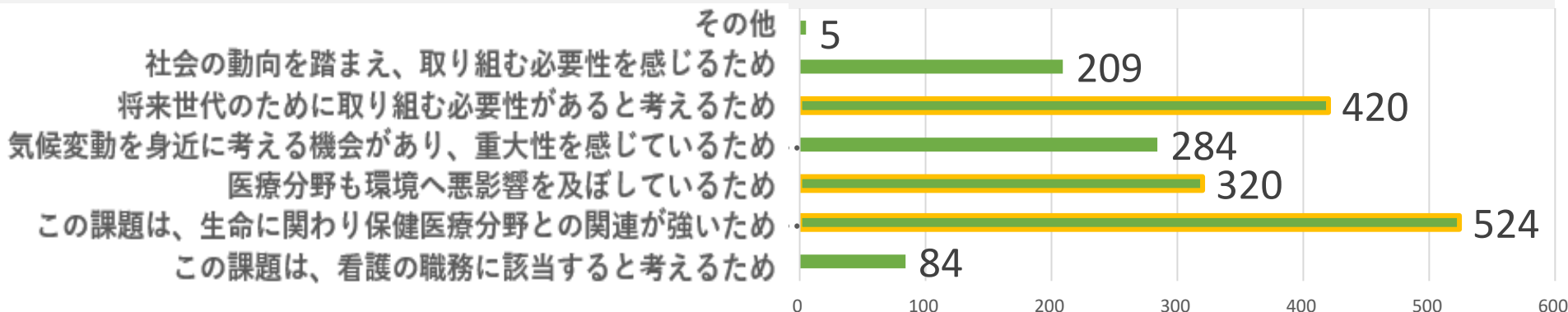






記述を読んだうえで、  
あなたの職務（保健師/助産師/看護師）の立場から、どの程度同意するかご回答ください

a-1. 「ややそう思う」「そう思う」と答えた方について、そのように思う主な理由は何ですか。  
(2024年8月 実施 有効回答=862)



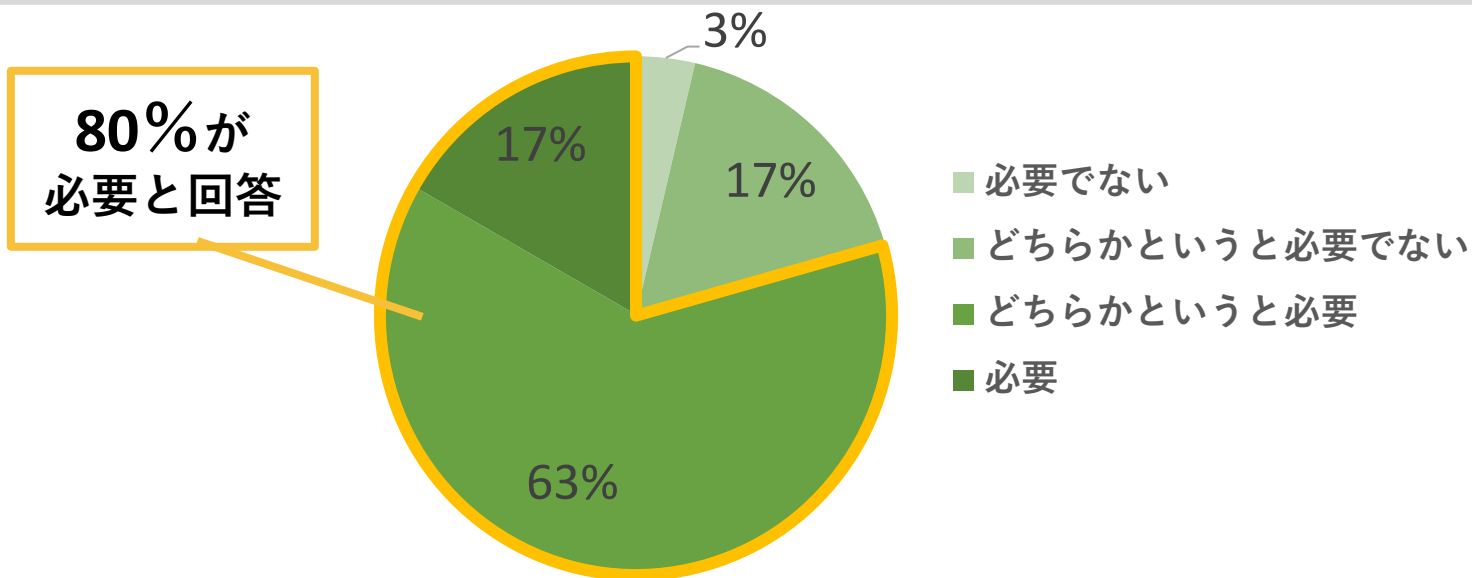
a-2. 看護職者が、気候変動の課題に取り組むにあたり何が障壁であると思いますか。  
(2024年8月 実施 N=1,200)





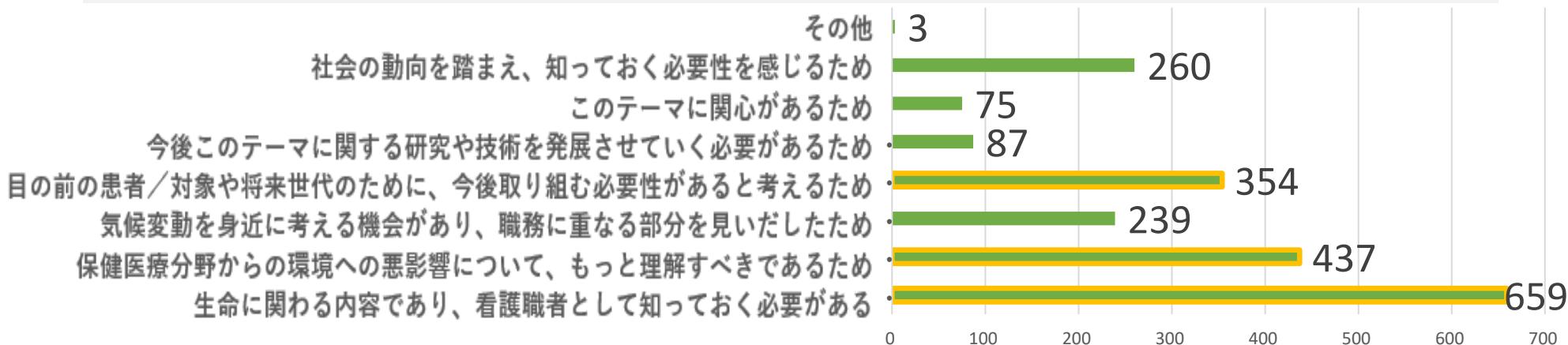
# 看護職者は、「気候変動と健康」に関する知識を学ぶ必要があると思いますか

(2024年8月 実施 N=1,200)



「どちらかという必要」「必要」と回答された方について、  
そのように思う主な理由は何ですか。

(2024年8月 実施 有効回答=954)





# 看護職者は、「気候変動と健康」に関する知識を学ぶ必要があると思いますか

「必要でない」「どちらかという必要でない」と回答された方について、  
そのように思う主な理由は何ですか。 (2024年8月 実施 有効回答=246)





# 気候変動と健康影響に関する職務的見解【所属施設別】（2024年8月 実施 N=1,200）

看護職者は、「気候変動と健康」に関する知識を学ぶ必要があると思いますか



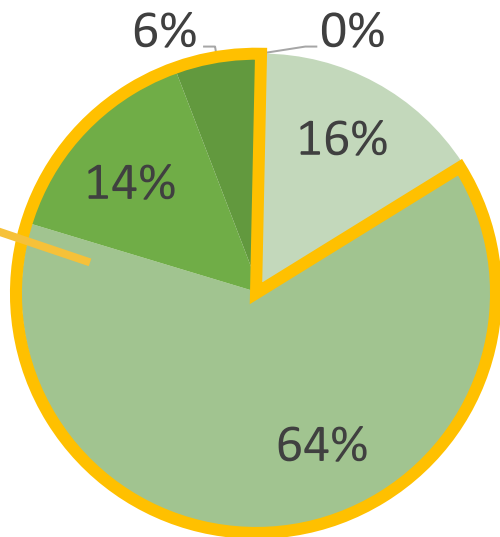
# 気候変動と健康に関する 行動意欲



# あなたは「気候変動と健康」に関する学習意欲がどの程度ありますか。

(2024年8月 実施 N=1,200)

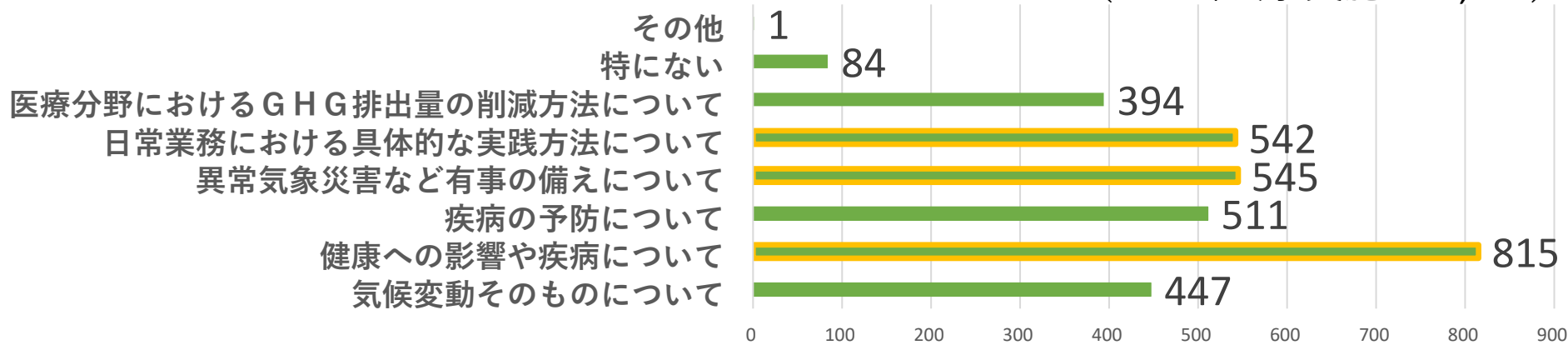
**84%が  
学習したい**



- 現状、学習しようとは思わない
- 機会が与えられた際には学習したいと思う
- 今後、自主的に学習したいと思う
- 既にある程度の知識を持っているが、今後も自主的に学習を続けたいと思う
- その他

## 「気候変動と健康」に関して、どのようなことが知りたいですか。(複数回答可)

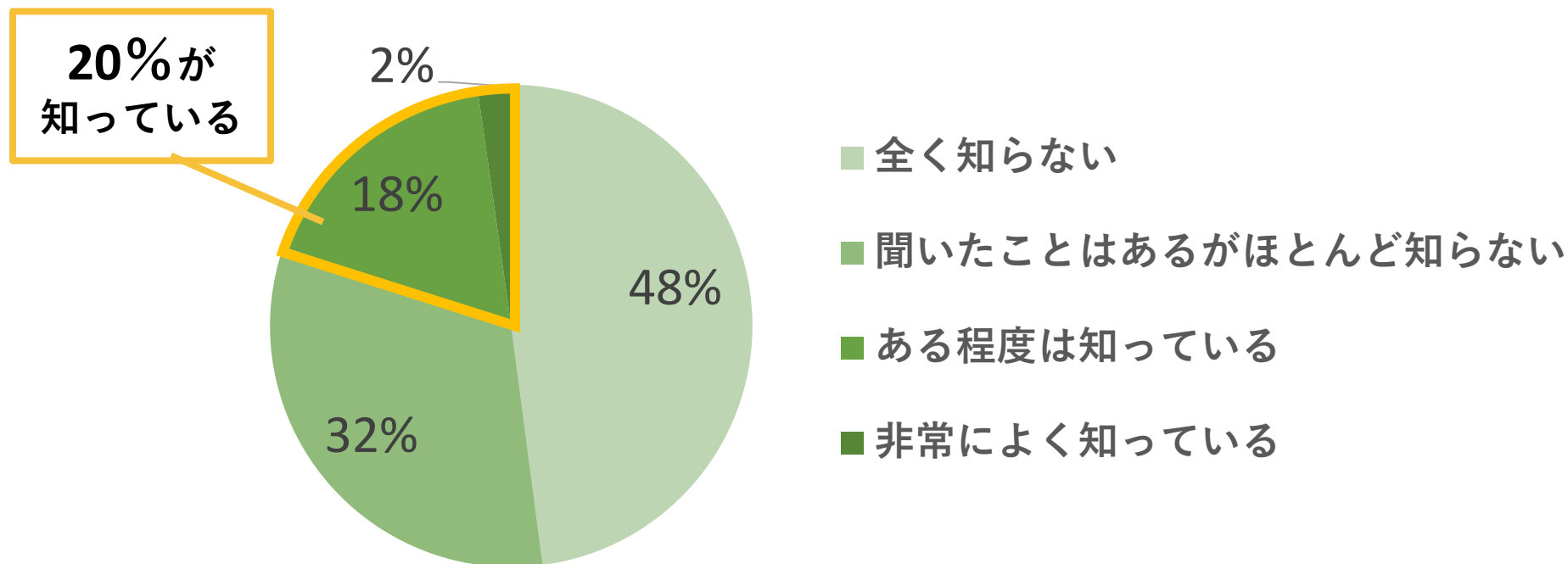
(2024年8月 実施 N=1,200)





記述について、日本の保健医療分野全体のGHG総排出量が、年間6.4%（約7000万 t -CO<sub>2</sub>）であることを知っていますか。 （2024年8月 実施 N=1,200）

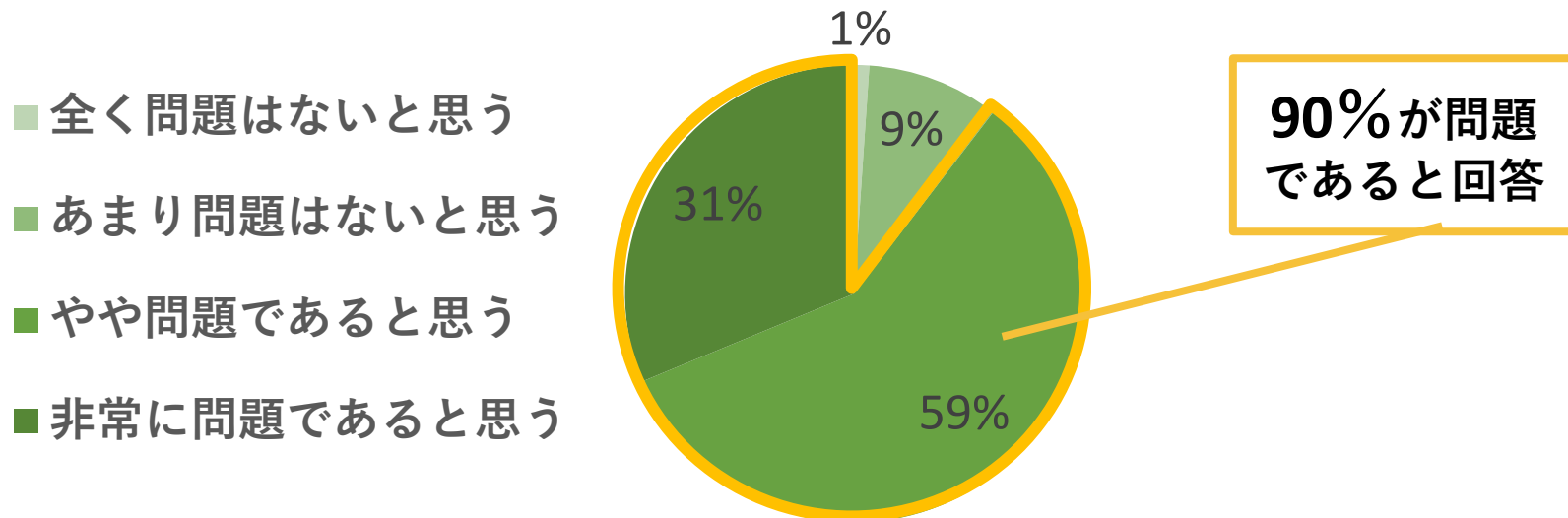
COVID-19パンデミック期間中、医療ごみの量は通常時の約2～3倍に増加したと報告されています。このような医療用物資の消費をふくめ、日本の保健医療分野全体の温室効果ガス(GHG)※総排出量は年間6.4%（約7,000万t -CO<sub>2</sub>）の排出があり、これは東京都の年間排出量（約6,000万t -CO<sub>2</sub>）よりも多い数字です。今後も、医療需要の増加や疾病・治療の複雑化により、GHG排出量は多くなるといわれています。



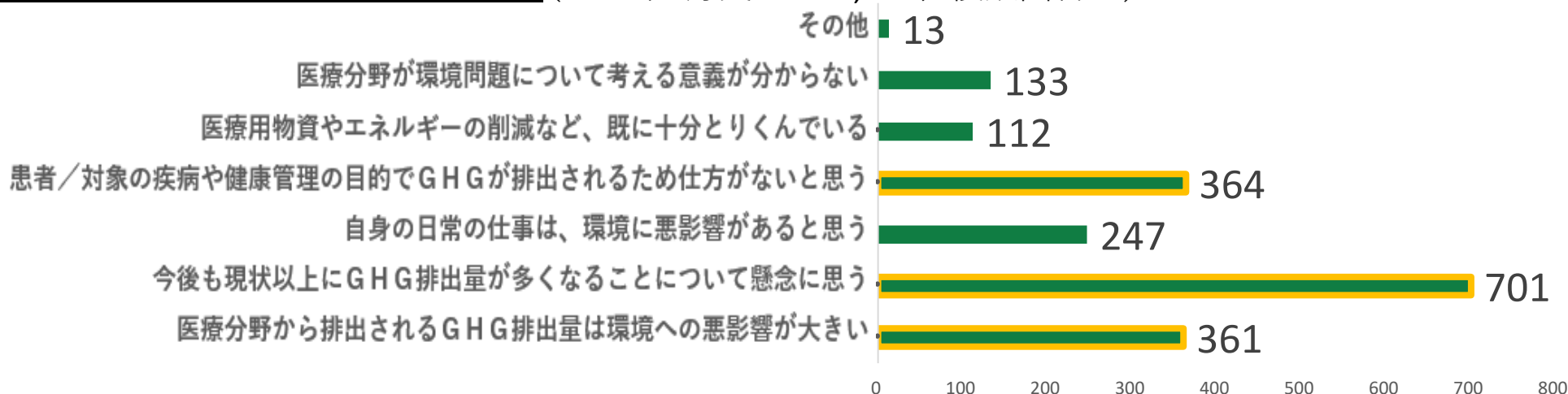


# 保健医療分野から排出される温室効果ガス（GHG）が環境に与える悪影響について、

## A. どのような意識をお持ちですか。 (2024年8月実施 N=1,200)



## B. どのように思いますか。 (2024年8月実施 N=1,200、複数回答可)



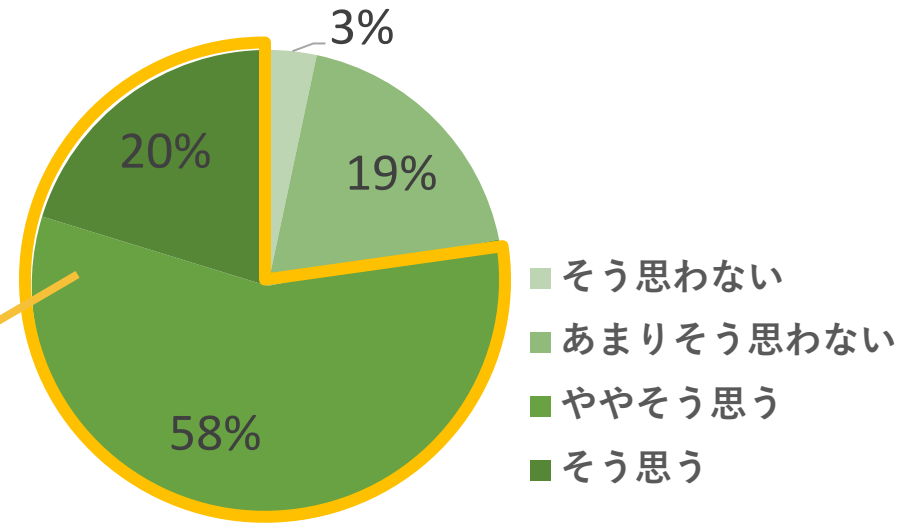




## あなたの職務（保健師/助産師/看護師）の立場から、どの程度同意するかご回答ください

保健医療分野全体として、より環境への負担が少ない保健・医療を提供するための選択肢がある場合、積極的にそれを採用すべきだと思いますか（2024年8月 実施 N=1,200）

**78%が  
そう思う**



## 取り組むにあたり何が障壁であると思いますか（2024年8月 実施 N=1,200）



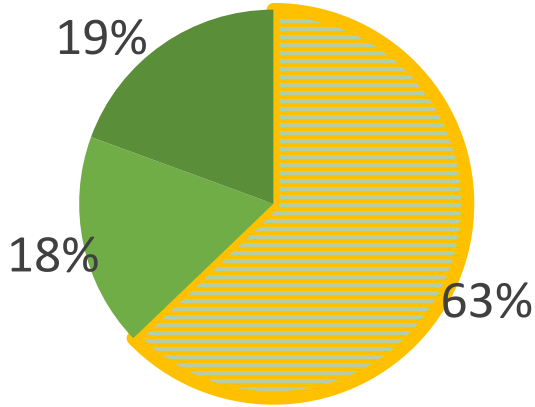


# 現在、所属されている機関や施設では、下記の取組みを組織レベルで行っていますか。

(2024年8月実施 N=1,200) ■はい ■いいえ ■わからない

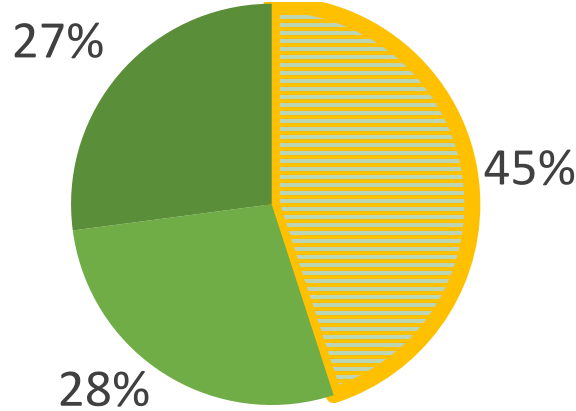
## 1. 廃棄物管理

(ゴミの適切な分別、リサイクル、ゴミ削減策の実施など)



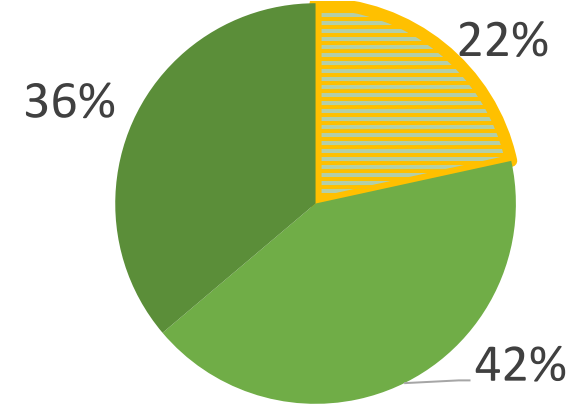
## 2. デジタル技術の利用

(電子端末などの積極的利用による紙の使用量削減、遠隔医療の促進など)



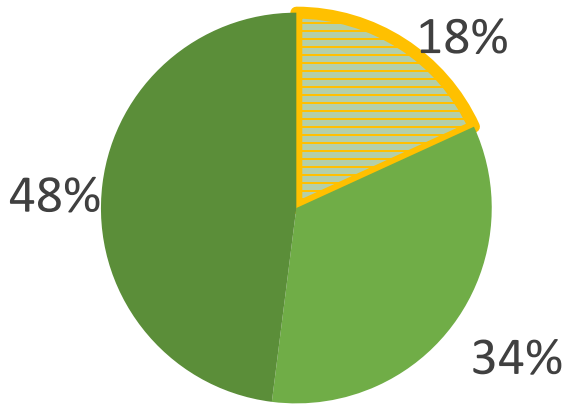
## 3. エネルギー管理

(施設をあげた節電の取組みや、太陽光発電などの再生可能エネルギー利用、省エネルギー設備など)



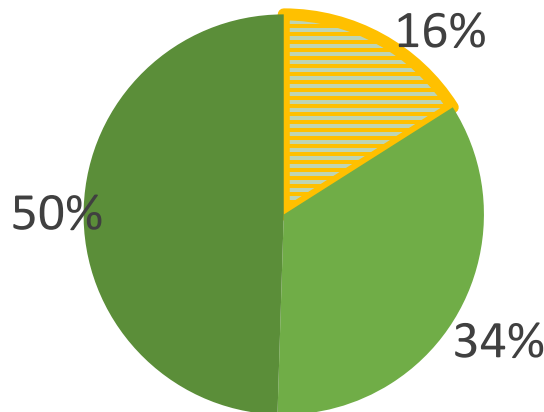
## 4. 環境に配慮した施設管理

(環境に配慮した建材の利用や建築設計など)



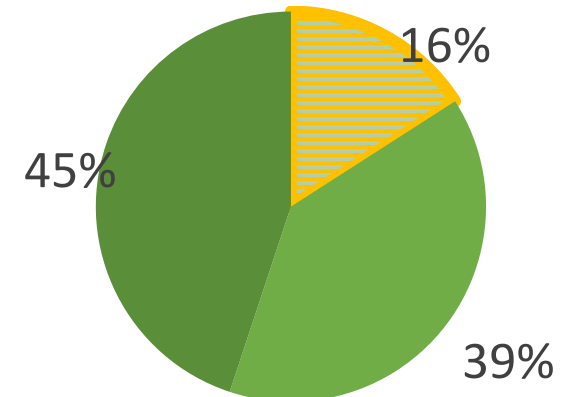
## 5. 持続可能なサプライチェーンの利用

(再生可能資源から作られた医療機器や薬品の利用や、環境への影響を考慮した物品調達など)



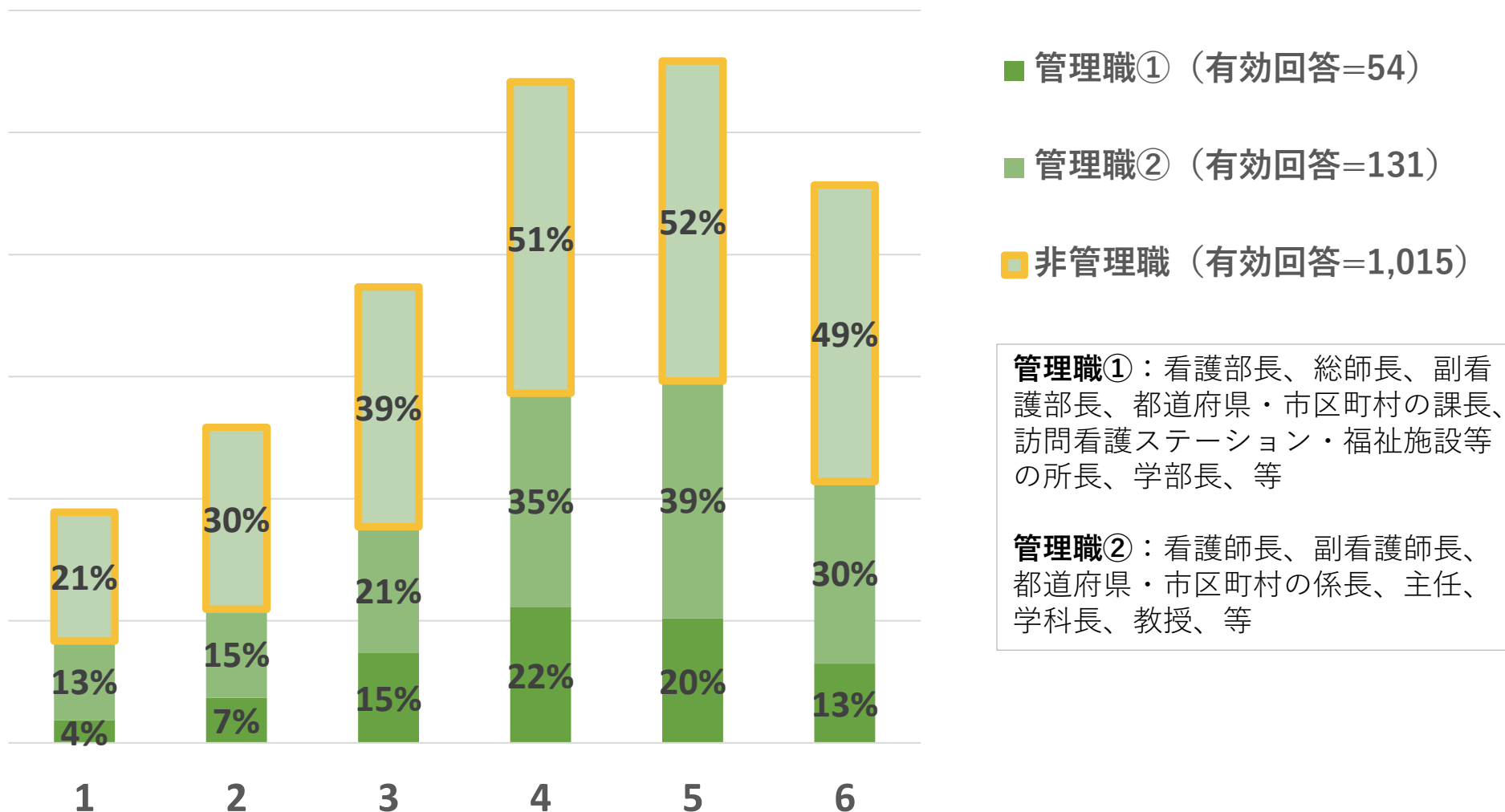
## 6. 移動・輸送に関する取組み

(業務用車両において電気自動車・ハイブリッド車の利用、職員の徒歩・公共交通機関利用の推奨など)





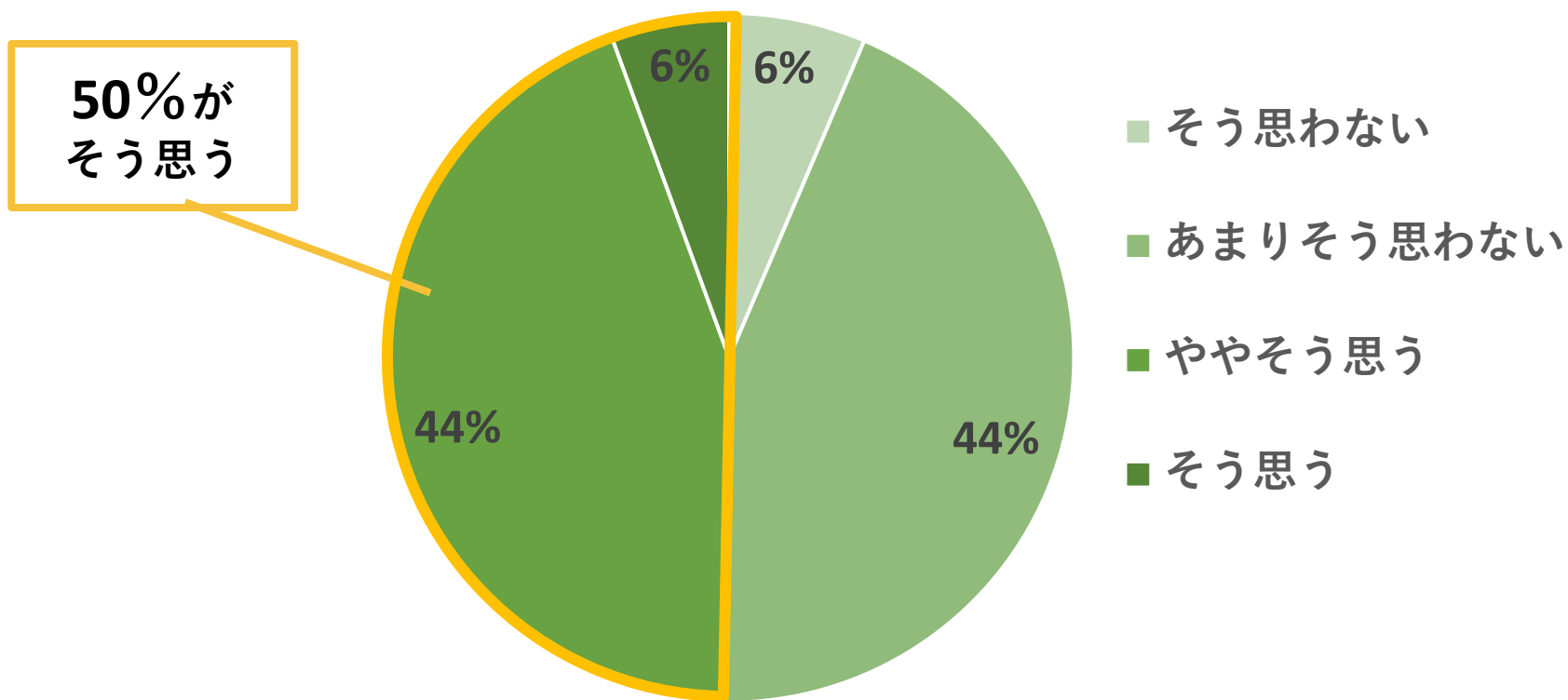
# 所属施設における取組みについて「わからない」と回答したものの内訳 【役職別】(2024年8月実施 有効回答=847)





看護職者は気候変動が及ぼす健康への影響に留意しながら、患者／対象が異常気象に適応し、それに備えるよう教育する役割を担うことができると思いますか

(2024年8月 実施 N=1,200)





あなたは仕事以外の時間で、家族や友人・近隣住民など身近な人々に、健康・医療に関する情報提供や相談・支援をすることがありますか。

(2024年8月 実施 N=1,200)

